

エンカウンター（ENCOUNTER）

第 6 号

平成14年10月20日

ビリー・グラハム「きょうのみことば」より（2）

1月5日

幸福なクリスチャンホームにまず欠くことのできない要素は、＜愛が実践されなければならない＞ということである。官能的な魅力や情欲、あるいはその他愛以外のものの上に建てられた家庭は粉々になって崩壊する運命にある。家庭を一致団結させるのは愛の力である。真の愛は霊的な奥義であり、忠誠や崇敬や英知を具現するものである。愛は、家族全員に途方もない責任を負わせるが、それには輝かしい報いも伴う。聖書には、「キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように……愛しなさい」と記されている。どのようにして、キリストは教会を愛されたであろうか。キリストは、教会を、その欠点や失策や弱さにもかかわらず愛された。真の愛は、絶えることがない。人格的な欠点、身体的な欠陥、精神的な弱さに関係なく、愛するのである。愛は深く、永遠に変わることがない。真の愛ほど家庭に安心感をもたらすものはないのである。

1月8日

私たちは、逆境の時に祈ろう。懐疑的になって不信仰に陥らないためである。私たちは繁栄のときに祈ろう。高慢になり尊大な態度をとることのないためである。私たちは危険なときに祈ろう。恐れたり疑ったりしないためである。私たちは安全な時にも祈ろう。自信過剰にならないためである。罪びとよ、あわれみ深い神に許しを祈り求めよ。クリスチャンよ、強情で、邪悪で、悔い改めていないこの世に、神の御霊の傾注があるように祈れ。両親よ、神があなた方の家庭にいつくしみとあわれみを与えてくださるよう祈れ。子供たちよ、あなたがたの両親の救いのために祈れ。

クリスチャンよ、神の聖徒たちよ、天の露が乾き切った地面の上に降りるように、そして、水が海をおおっているように正義が地をおおうように祈れ。

1月9日

聖書を、揺るぐことのない土台とせよ。クリスチャンである私たちは、ただ一つの権威、ただ一つの羅針盤である神のことば、すなわち聖書を持っている。リンカンも、友人にあてた手紙の中で、「私は、聖書を読んで益を受けています。聖書の全部をまず理性でできるだけ吸収しなさい。そして後は信仰にゆだねなさい。

あなたはさらに勝った人間として生きることができ、また死ぬことができるでしょう」と書いている。

一日を聖書で始めよ。その日の終わりには、みことばをしてあなたのたましいに語らせるが良い。みことばを、あなたの希望を打ち立てる堅固な土台とし、霊を養ういのちの糧とせよ。みことばを霊の剣となし、それによって生活の中の邪悪なものを切り去り、主の御姿に似たものとしていただくべきである。

1月11日

クリスチャンが、この世の苦難や自然の災害を免れることができるとは、聖書の何処にも書かれていない。聖書が教えているのは、クリスチャンが、キリストの外にある人には利用できない超自然的な力をもって、艱難、危機、災い、個人的な苦しみに直面できるということである。初代のクリスチャンは、試練や苦難や、意気消沈させるような状況のさなかにあって、喜びを経験することができた。彼らは、キリストのための苦しみを重荷あるいは不幸と考えず、大きな榮譽として、苦しみの中でキリストをあかしするのにふさわしい者とされた証拠として考えていた。彼らはキリストが自分たちを救うためにどのような苦しみを経験されたかを決して忘れなかった。だからこそ、キリストの御名のゆえに苦しむことを、十字架というよりはむしろ賜物と考えたのである。クリスチャンは、艱難の中で喜ぶことができる。永遠の価値を見ているからである。苦難がやってきても、現在の窮境のかなたに天の栄光を見る。特権と喜びを伴う未来の生活に思いをはせる時、現在の試練は軽い一時的なものに過ぎないことがわかってくる。

1月12日

神は、私たちが病床にあるとき、特に近くにおられる。神はベッドを快適にし、ご自身の臨在とやさしい配慮をもって新鮮にしてください。神はまた、私たちの涙をぬぐい去ってください。特別にやさしくめんどろを見て、ご自身の大いなる御愛を示してくださいなのである。なぜ庭師はばらの木を剪定し、時には実を結ぶ枝まで切ってしまうのか。そのわけを私に説明してほしい。そうしたら私も、なぜ神の民が苦しみに会うのか、あなたに語ろう。

神の御手がすべるようなことは決してない。神は間違いを決してなさらない。神のなさることは一つ一つがみな、私たち自身の究極的な益のためのものである。神はしばしば私たちを剪定し、私たちのイメージを骨抜きにされなければならない。剪定は、時には適合に先立つのである。

1月19日

日ごとの祈りにおいて、神のみもとに来る秘訣を学んでいる者は幸いである。毎朝の一日をスタートする前の神とともになる15分間は、状況を変え、山を移すことができる。しかし、天の宝庫から流れ出るすべての幸福、すべての無限の恩恵は、私たちの神との関係にかかっている。絶対的な依存状態と絶対的な明け渡しは、神の子供であるための条件である。神の子供たちのみが、幸福に役立つそれらのものを受け資格がある。そして、神の子供となるためには、神への意志の明け渡しがなければならない。人は、行いを通して神を知るようになるのではない。恵みにより、信仰によって、神を知るようになるのである。あなたは、自分自身の努力によって、幸福への道、天国への道を切り開くことはできない。あなたは、正しい行いによって、それをするにはできない。あなたは、あなた自身を改善することによってそれをするにはできない。あなたは、金銭によってそれを買うことはできない。それは、神の賜物として、キリストを通してもたらされるのである。

1月23日

初代のクリスチャンの一人ヒエロニムスは、「聖書を知らないことは、キリストを知らないことを意味する」と言った。ヨブは、かつて、「私の定めよりも、御口のことばをたくわえた」と言った。エレミヤは、「私はあなたのみことばを見つけ出し、それを食べました。あなたのみことばは、私にとって楽しみとなり、心の喜びとなりました」と言った。聖書を読むためには、「静かなとき」が必要である。クリスチャンの学生たちは、しばしば、「どのようにして、あなたは高い霊的水準を維持しているのですか。あなたは、日ごとに何をしていますか」と尋ねる。私は、彼等に、私の静かなときについて話すのである。あるときは早朝であり、あるときは午前遅くであり、時には夕べのこともある。それなしには、私のクリスチャン生活は、荒野になるであろう。イザヤは、「主を待ち望むものは新しく力を得、鷲のように翼をかって登ることができる。走ってもたゆまず、歩いても疲れはない」(イザヤ40・31)と言った。それゆえ、預言者イザヤが示唆しているように、鷲の力を獲得せよ。日ごとに、あなたが神と共に過ごすことのできるしばらくの時間をとるようにせよ。

1月28日

あなたの悲しみの時に神に頼れ。神に頼っている人が、数かぎりなくいる。しかし、あなたは、今なお、重荷を負っているかもしれない。しかし、神はあなたに「あなたの思い煩いを、いっさい私にゆだねなさい。私があなただけを心配します」(ペテロ5・7)と願っておられるのである。死の陰の谷を歩まねばならないあなた、愛してきた者と別れなければならないあなた、窮乏と悲惨を味わっているあなた
 気を取り直せ。私たちのキリストは、悲しみに対して、十分以上に対処してくださるおかたである。

2月1日

神を愛する人々……のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

ローマ8・28

「ハレルヤコーラス」は、ヘンデルが貧乏にさいなまれ、からだの右側と右腕の麻痺に苦しんでいた時に書かれた。苦難は、私たちを啓発し、クリスチャンとして成長させるためのものであるかもしれない。病気は、神を愛する人々のために働かせて益としてくださる「すべてのこと」の一つである。それを恨んではならない。それによって惨めな気持ちになってはならない。

次の文章は、米倉安雄さんが毎月発行されていた伝道誌「つくば佳音」に、載せて頂いた私のビリー・グラハム先生に対するあかしの文章です。今（平成14年）の時点で、少し手を入れながら、ここにご紹介させていただきます。

ビリー・グラハム先生の勧めとわたし

山口周三

昭和55年10月、ビリー・グラハムの伝道集会在東京後樂園球場で開かれました。そのことを地下鉄のつり広告で知り、大衆伝道とはどんなものだろうかというぐらいの好奇心から、第3日目の10月24日の夜、同球場に出かけて行きました。

ところが、ビリー・グラハムの説教は、真に福音的で、明快で、力強いことに驚かされ、いっぺんで説教にとらわれてしまいました。ビリー・グラハムは、説教の終わりに、今神の細き声を聞いた人はこのグラウンドに下りてきなさいと勧め、私はすでに受洗していたのでためらいましたが、信仰再確認のつもりで、ほとんど最後にグラウンドに降りました。今思うと、あの時グラウンドに下りたことが、私の人生で、一つの重要な転機になったように思います。

そのときのビリー・グラハム先生の教えは、

毎日聖書を読め。 聖句を覚えよ。 毎日祈れ。 教会に通い、洗礼を受けよ。 信仰を証しする人になれ。
というものでした。

その後10月25日、26日と後樂園球場に通い、たった3回の説教で、わたしはビリー・グラハム先生を信仰の師と仰ぐようになりました。

毎朝出勤前の短い時間を利用して、聖書を1章読むようになりました。4年ほどかかって、やっと旧新約聖書を読み通すことができました。ただ出勤前で時間が限られ、慌しい時なので、形式に流れ、よく

理解して読んでいるとはいえません。

次に、これはビリー・グラハム先生の勧めではありませんが、数冊のデボーションの本のその日のところを読みます。これまでに読んで、素晴らしいと思ったのは、内村鑑三「一日一章」「続一日一章」、スポルジョンの「朝ごとに」、カウマン夫人の「荒野の泉」、ビリー・グラハムの「きょうのみことば」、金田福一の「霊想の365日」などです。デボーションの本には、これ以外にも素晴らしい本がたくさんあります。

それから、祈るようになりました。ビリー・グラハム先生に教わった祈りの例にならい、自分の罪人であることとイエス・キリストによる贖いを祈り、次に「小西芳之助先生余芳」に載っていた小西先生の毎朝の祈りの例にならい、信仰の先生方、家族、肉親、知人等のために祈ります。

ビリー・グラハム先生の勧めの中で、「聖句を覚えよ」という勧めは、始めはカードを作り実行していました。聖句を覚えると、困難に出会ったとき助けが口をついて出るようになるでしょう。

教会に通えと言う勧めは、石館家庭集会と早稲田教会に通っています。

信仰を証しする人となれと言う勧めは、わたしにとってずっと最も難しい教えでありましたが、今このような形の文書伝道ができるようになりました。

わたしの信仰の恩師の小西芳之助牧師は、内村鑑三に信仰を学び、日本基督教団の高円寺東教会という小さな教会を牧しておられました。大衆伝道者ビリー・グラハムと大衆的でない内村鑑三、小西芳之助が、ともに信仰の恩師であることが面白く感じられます。

しかし、この3人は、正統的教理であるイエス・キリストの十字架の贖いと復活の信仰を強調する点で一致しますから、3人は、きわめて近いと考えています。